まちづくり協議会 ヒアリング結果概要

ヒアリング：協働のまちづくり課

ヒアリング結果まとめ：みんなの集落研究所

■まち協の必要性

- ・まちづくり協議会の交付金にて、広報や歴史の保全活動、味噌づくりなど、地域の特性を活かした活動ができています。
- ・役員や自営業の人が多く、企業との繋がりができた。
- ・消防・栄養・愛育・行政協力委員など各団体がまち協の会議にでており、声をかけたらいろいろな団体が協力してくれる。
- ・もともとあった活動がまち協の事業になり、支え合いや歴史保存会、獣害対策など、課題解決の事業へと展開している。
- ・まちづくり協議会の交付金で行っている花植えの事業では、まちづくり協議会・公民館・学校の連携ができています。
- ・買い物支援事業では、重い荷物などを届けてもらえるので住民が助かっている。

■まち協の課題

- ・若い世代の人たちは仕事・生活が優先であるため役職を依頼するのが難しく、後継者が育たない。
後継者をどうやって見つけたらよいか分からない。
- ・人と人を束ねる仕組みがない。事務の仕事量が多く、その中身も難しい。
事業すればするほど事務量が増える。でも今しとかないとというのがある。
- ・地区が大きすぎて人がまとまらない。各地区の世帯に応じた役員数になっていない。
別の町内会が協力して何か一つの事をやるというのは難しい。
- ・地域の中で活動が周知されていない。活動に参加する人が集まらない。
- ・住民の協働に対する認識がない。草刈り・掃除以外でみんなでしようという行事がない。
- ・新しい事として何をしたらいいのか考えるが難しい現状。

■地域として解決したい課題 【テーマ】

〈地域が抱える課題〉

- ・ 防災活動・休耕田対策・空き家対策・獣害対策
- ・ 移動支援・島の交通や運搬・景観整備

〈これから力をいれたい〉

- ・ 公民館や地区社協など他団体との連携（地区防災・敬老会）
- ・ 地域担当職員等支援人材との関係
- ・ 会議のオンライン化

■地域として解決したい課題 【防災活動】

- ・各地区がどこまで機能しているか把握できていない。伝達事項取れてない。
- ・各地区に自主防災組織があるが予算が無い。
- ・自主防災の連絡員に消防団が入っていたりして、災害時に自主防災として活動できない。かたち上は連携できているように見えても、中身が伴っていない。
- ・自主防が避難所を運営するという意識が市民はない。
- ・津波が来たら、大部分が浸かる。上に逃げるしかないから、地区合同で避難訓練をしようと言ったこともあるが、できていない。
- ・災害が起きたときのルーティーンは特になく、みんなだいたいどこの人が避難できないかやどこに行っているなど近所のことを把握している。普段から近所の人々の動向はみんなが把握できており、災害時に困ることはなさそう。

■地域として解決したい課題 【その他】

- ・ 敬老会について、高齢者数や開催場所などの関係から地区割り見直しを要求する声が上がっている。敬老会の対象となる高齢者数の増加で場所の確保が難しい。
- ・ 公民館は生涯学習をするところという意識がある。
- ・ 管轄地域があまりに広すぎて、一緒になってやろうという考えが始めからなかった。いろんなまち協のエリアとかぶっているので、かえって何も協力が得られない。
- ・ 地区社会福祉協議会の事務所が無いので地域の中に居場所がない。
- ・ 地域担当職員について、職員に遠慮してあまり活用していない。地元の人だと呼びやすい。もっと地域へ入ってきて欲しい。
- ・ スマホやIpadなどを利用したネットワークを地域で作ることはできないか。地区内の情報伝達においてオンライン化を検討したい。

■見直しに臨むこと

- ・地域に合わせて自由に交付金を使えるようにすればいいのではないか。
- ・見直しをしても現在行っている生活に必要な事業が続けられるようにしてほしい。
- ・新たにどういう体制にするのかなど市も全体で見直しに取り組み、市の方から指導してほしい。
- ・公民館とまちづくり協議会の間には流れる連携しにくい空気をとってほしい。各組織の役割を明確にして欲しい。
- ・公民館・まち協・行政協力委員を一つにまとめるなど、予算を持っているところを集めて地域に一括して交付金を交付するなどして施策を展開してほしい。
- ・地区割りの見直しをしてほしい。
- ・地域計画の作成においてアンケートが一番難しい。